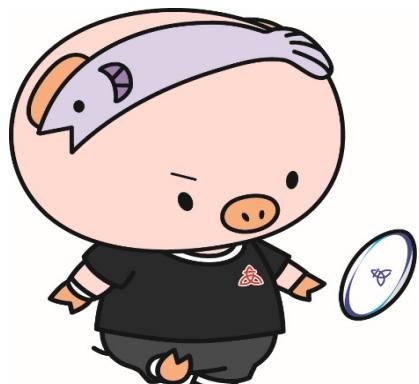


厚木市制70周年記念事業

第1回 シニアタグラグビーフェスタ in あつぎ

大会規則 (1114版)



©厚木市
あゆまつり



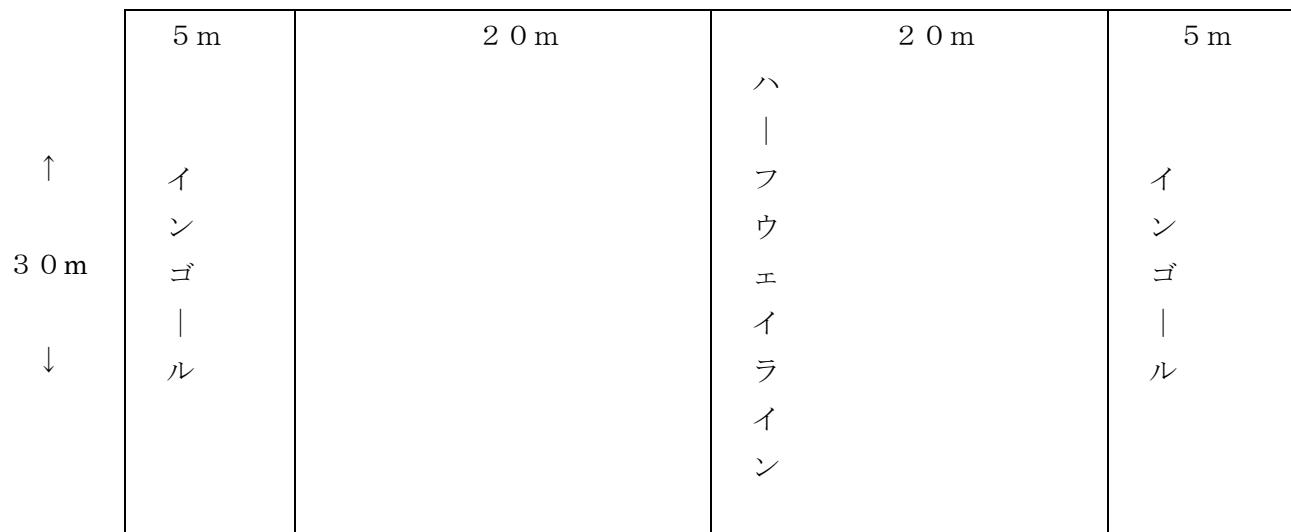
令和7年11月22日(土)
前夜祭 厚木アーバンホテル
令和7年11月23日(日)
厚木市荻野運動公園 競技場

【 第1回 シニアタグラグビーフェスタ in あつぎ 大会規則 】

1条 グラウンド

グラウンドサイズは横 30m × 縦 40m (トライラインからトライライン)、トライゾーン (トライラインからデッドボールライン) は各 3~5m ずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。



2条 用具

- (1) 大会期間中に使用するタグセット、タグボールは主催者で用意したものを使用する。
- (2) ボールは、4号球使用し、空気圧は 0.5~0.6kg/cm²とする。
- (3) タグは日本協会規定サイズ (50 mm × 375 mm) とする。

3条 チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる 4 ~ 5 名のプレーヤーと入替可能な 1 名以上のプレーヤーから成る。ただし、プレーヤーの負傷、疾病等が生じてチームの人数が 3 名になった場合はこの限りではない。その際、責任者は試合出場ができないプレーヤーについての申立を大会本部に行ない、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが 3 名以下になった場合、試合は行なえない。
- (2) 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び責任者が揃わない場合、相手チームの不戦勝 (5 - 0) とする。
- (3) 責任者は、他チーム同士の試合のタッチジャッジが務められること。責任者は試合中に次のことができる。
 - ①負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること
 - ②グラウンドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと
 - ③グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと
 - ④ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水をすること
 - ⑤グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと
- (4) 責任者は大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。

(5) レフリー、アシスタントレフリー、競技役員はチーム、責任者等の言動が悪質な妨害行為にあたると判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4条 プレーヤーの服装

(1) プレーヤーの服装については以下の通りとする。

- ①運動に適した服装、運動靴またはトレーニングシューズ
- ②一体成型ゴム底のスパイク（金属製及び取替式ポイントのスパイクは認めない）

<規則に反しない例>



<規則に反する例>



③パンツは以下とする。

- ・ポケットなし
- ・ポケットがある場合はチャック付きのもの
- ・チャックなしの場合はテープ等を貼り、手や指が一切入らないようにしたもの

④上着はパンツの中に入れること。また、タグベルトは上着の上に装着されていること。

⑤プレー中、タグは常に真横に装着されているように留意すること。プレー中、前後をはじめとしてタグを取れない位置にタグが装着されていることが確認された場合、反則を命じる場合がある。

(2) プレーヤーは以下の物を着用することができる。

①髪留め（ゴム製）

②めがね（試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを用いることが望ましい）

(3) 以下の物については着用を認めない。

①手袋（タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため）

②ギブス等医療装具（着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではない）

③ネックレス、時計、指輪、ピアスその他、タグラグビーをプレーする上で関係がないと認められる物

(4) レフリー、アシスタントレフリーはプレーヤーが上記について適切に着用されているかの確認を第一試合開始前までに確認する。

(5) レフリーは対戦相手の服装が酷似して紛らわしいと判断する場合、両者にビブス等を着用させる場合がある。この場合、ビブス等はパンツの中に入れ、タグベルトはビブスの上から着用すること。

5条 選手の入れ替え

(1) 入替は以下の時に何度でも可とする。

- ①トライ後
- ②ハーフタイム開始時
- ③負傷でゲームが中断した時
- ④攻守交替時

⑤反則があり、試合が止まった時

※原則はタグが0回で、試合が止まっている時とする

(2) 入替は責任者がレフリーに申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない（時間は継続）。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

(3) 負傷により退場したプレーヤーが試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

6条 試合時間

(1) 試合時間については以下の通りとする。

・前半5分、ハーフタイム1分、後半5分

（なお主催者の判断で時間を変更することがある）

(2) プレーヤーは、ハーフタイムにサイドチェンジを行なった後、飲水を行なえるが、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいなければならない。レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたると判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

7条 レフリー

(1) 試合はレフリー1名 アシスタントレフリー（またはタッチジャッジ）2名とする。

(2) レフリー及びアシスタントレフリーは主催者が指名する（アシスタントレフリー2名については、参加チームの中から主催者が指名する場合がある）。

(3) レフリーはグラウンド内で判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。

(4) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。

①レフリーの判定の補佐

②選手の入れ替えの補佐

③負傷者のための試合停止の要請

④チーム、責任者、観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告

(5) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない

(6) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。

①プレーヤーが負傷し起きあがれない場合、マッチドクターからの要請による場合

②プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合

③レフリーが以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）

④競技時間を停止及び再開する場合、レフリーは明確な方法でプレーヤー等関係者に伝達する

8条 試合時間の管理と試合の記録

(1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。

(2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止める。

(3) 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行なえる。

9条 試合の開始

試合の開始（キックオフ）は、レフリーの笛の合図で開始し、その他のフリーパスの開始は、レフリーの「プレイ」のコールで開始する

10条 試合終了

試合の終了（ノーサイド）は、時間ではなくプレーの切れ目によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

※ペナルティーの場合は、試合継続となる。

※タグの回数が継続中であっても、タグを付けていないプレーヤーがインゴールに入った場合は、ボールデッドとし、試合終了となる。

11条 試合の勝敗について

(1) ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

(2) 同点の場合（なお主催者の判断で変更することがある）

・予選；引き分け

・決勝順位決定戦；延長3分・Vトライ方式、勝敗が決さない場合は最後に出場していたメンバーによる抽選（くじ引き等）で勝敗を決する。

以上

【 シニアタグラグビーフェスタ 競技規則 】

1条 プレーの方法

- (1) 前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行う。(後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行う。)
- (2) 試合中、二本のタグを左右の腰に一本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができる。

2条 アドバンテージ

- (1) 一方のチームが相手の反則により利益を得た場合、レフリーは、競技が流れるようるためにプレーを継続させることができる。
- (2) レフリーはこの場合、「アドバンテージ」のコールをし、試合継続を促す。
- (3) アドバンテージは以下を定義する。
 - ①戦術的なものの場合。反則をしていないチームは、ボールを好きなように自由にプレーできる。
 - ②地域的なものの場合。プレーが、反則をしたチームのデッドボールラインの方へ移動する。
 - ③戦術的なものと地域的なものの組み合わせの場合もある。
 - ④明白で実際的なものでなければならない。ただ単に利益を得る機会があるだけでは、不十分である。
- (4) アドバンテージが終了するのは
 - ①レフリーが、反則をしていないチームが利益を得たとみなした場合。レフリーはプレーを継続させる。
 - ②レフリーが、反則をしていないチームが利益を得そうにないとみなした場合。レフリーは競技を停止し、アドバンテージを適用した原因の反則に対する罰を適用する。
 - ③反則をしていないチームが、自分達が利益を得る前に反則を犯した場合。レフリーは競技を停止し、最初の反則に対する罰を適用する。いずれかの反則が、または、どちらの反則も不正なプレーである場合、それらの違反に対し、レフリーは適切な罰を適用する。
 - ④反則をしたチームが、アドバンテージが生じない2つ目、または、前の反則に続く反則を犯した場合。レフリーはプレーを停止し、反則をしていないチームのキャプテンに利益のある地点を選択させる。
- (5) 次の場合、アドバンテージが適用されはならず、レフリーはただちに笛を吹かなければならない
 - ①ボールまたはボールを保持しているプレーヤーがレフリーに触れ、いずれかのチームに利益が生じた場合。
 - ②ボールがデッドになった場合。
 - ③プレーを続けさせるのが危険な場合。
 - ④プレーヤーが重大な負傷を負ったと疑いがある場合。

3条 得点〔トライ〕とその後の再開

- (1) 左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手トライゾーン（トライラインを含む）にボールを着けると1点が得られる（「トライ」）。
- (2) レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られたと判断した場合、または、反則の繰り返しがあった場合、状況を判断した上でトライ（「ペナルティトライ」）を与える場合がある。
- (3) トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行う。

- (4) 次の場合、トライは認められない。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開する（タグの回数は継続）。
- ①ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていたいなかった。
 - ②インゴールでタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。
- 【補足】 このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスすることで再開する。

4条 タグ

- 防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上に掲げて「タグ」と叫んだら、タグが成立する。
- (1) タグが起きたら、プレーヤーは次のことを行う。
 - ①タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスする。
 - ②タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡しで返す。この際、タグを取ったプレーヤーのパスを邪魔しないこと。
 - ③タグを取られたプレーヤーは、速やかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けてからプレーに復帰すること。
 - (2) 防御側がタグを4回取ったら攻守交代となり、4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開する。
 - (3) タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取ることができる。
 - (4) タグは自立した状態で取らなければならない。
 - (5) タグを取っていないにもかかわらず、「タグ」とコールした場合は、反則となる。
 - (6) パスをする前もしくはパスをした後に故意でタグを取った場合は、反則となる。
 - (7) ボールを持っているプレーヤーは、タグを取りにくるプレーヤーから身をかわしてよいが、タグを取ることを邪魔したり、取られないように手で押さえたり隠したり、ジャンプしたり体を一回転以上させることはできない。

※ (1) の基準は、タグを取られる前に止まるまたは、パスをする準備をしているかどうかで判断し、準備ができるない場合は、オーバーステップの反則となる。

5条 オフサイド（反則）

- タグが発生すると、タグを取られたプレーヤーがボールをパスした地点を基準として、トライラインに平行なオフサイドラインができる。
- (1) オフサイドラインの前にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がる。
 - (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりすることを妨げないようにする。
 - (3) フリーパスでパスを出す前に防御側プレーヤーが、5メートルよりも前に動いた場合、オフサイドとなる。
 - (4) ボールを持ったプレーヤーが、前にいる味方プレーヤーに接触した場合、オフサイドとなる（アクシデンタルオフサイド）。

6条 ノックフォワード・スローフォワード

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックフォワード」という。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」という。

7条 オブストラクション

ボールをも持っているプレーヤーの味方プレーヤーが前または横にいて、タグを取る邪魔になると反則となる。

8条 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方2m以内にいるプレーヤーに空中を通ったパスをすること。

- (1) フリーパスは、前後半の開始、トライの後、反則があったとき、タッチ、その他ルールで定められているときに行われる。
- (2) フリーパスの際、防御側のプレーヤーは速やかにフリーパスの地点からに5m下がること。
- (3) トライゾーン及びトライラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われない。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、トライライン前5mの地点から行う（「5m フリーパス」という）。

9条 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となる。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行う。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れる。

10条 トライゾーン、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開する。
- (2) タッチダウン
プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、トライにはならない。
次の場合、5mフリーパスで試合を再開する。
 - ①攻撃側が自陣インゴールにボールを持ち込んだ場合、防御側のフリーパスで再開する。
 - ②防御側が自陣インゴールにボールを持ち込んだ場合、攻撃側のフリーパスで再開する。

11条 ボールまたはボールキャリアがレフリーまたはプレーヤー以外に触れた場合

- (1) 最後にボールをプレーした側のチームのフリーパスで再開する（タグの回数は継続）。
- (2) ボールキャリア（攻撃側）がトライライン内でレフリー等に接触した場合、タグの回数は継続で5m下がった位置から試合を再開する。

12条 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはならない。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられる。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること、または接触・衝突につながる行為をすること。
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかわす以外の方法で、相手がタグを取ることを邪魔すること。
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを不快な気持ちにさせる全ての行為。

1 3 条 不正なプレー

不正なプレーを行ったプレーヤーは、注意を受けるか、退出または退場となる。

- (1) 妨害行為
- (2) 不正当なプレー
- (3) 反則の繰り返し
- (4) 危険なプレー
- (5) 不行跡

1 4 条 イエローカード、レッドカード

- (1) レフリーは、注意を与え退出を命じたプレーヤーに対し、イエローカードを示す。退出となったプレーヤーは、試合の残り部分に参加できない。退出となったプレーヤーについて、交替や入替えはできない。
- (2) レフリーは、退場になったプレーヤーに対し、レッドカードを示す。退場となったプレーヤーは、試合の残り部分に参加できない。退場となったプレーヤーについて、交替や入替えはできない。また、退場となったプレーヤーは、当日の残りの全ての試合に参加できない。

1 5 条 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開するが、タグの回数は継続とする。

以 上

【 シニアタグラグビーフェスタ大会規則・競技規則補足 】

この「補足」は、大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解してもらいたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にタグラグビーを楽しめる環境を作るため、以下について理解並び周知、指導をお願いします。

1条 試合進行に対する悪質な妨害について

(1) プレーヤーは、レフリーの権限を尊重しなければならない。また、レフリーの決定に反論してはならない。レフリーがプレーを停止するために笛を吹いたときは、ただちにプレーを停止しなければならない。レフリー（アシスタントレフリーも含む）並びに競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告（注意を受けるか、イエローカードを提示）または退出（レッドカード）となる。そのプレーヤーは試合の残りの部分には参加できない。

「悪質な妨害行為」とは次の行為を指す。

- ① 時間を空費する行為
- ② 故意の反則
- ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
- ④ 暴力行為
- ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリーへの暴言
- ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリーが試合進行の妨げになると判断した行為。
- ⑧ レフリングのコールをすること。

→罰：プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

(2) 試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数はゼロ）。アシスタントレフリー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応戦する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

(3) イエローカード及びレッドカードを命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客の罰について

- ① 試合中にイエローカード及びレッドカードを命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。イエローカードは原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。レッドカードは当日の残りの全ての試合に参加できない。
- ② 原則として翌日以降には持ち越さない。ただし、イエローカードを提示されたプレーヤーは当該大会期間中に再度イエローカードを提示された場合はレッドカードとなり、当日の残りの全ての試合に参加できない。

2条 タグラグビーのプレーについて

- (1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。
- ① ボールを持って自由に動くこと
 - ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること [パス]
 - ③ 空中にあるボールを捕球すること
 - ④ 地面にあるボールを拾うこと
 - ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること
 - ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取ること（プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様）
- (2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。
- ① 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする
 - ② ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る
 - ③ ボールを離したときの位置より前方にボールを投げる
 - ④ 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす（ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックフォワードにはならない）
 - ⑤ 相手をかわす以外の方法でタグを取ることを妨げる
 - ⑥ 相手の保持しているボールを力づくで奪う
 - ⑦ あらゆる種類のキック
 - ⑧ レフリングのコール

3条 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

(1) 攻撃時（ボールを保持している時）

- 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為
- ボールを保持したプレーヤーはよけられる、止まれるスピードでプレーする責任がある。
- 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のようない行為を指す
 - ・ 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る
 - ・ 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - ・ 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る
 - ・ タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る
 - ・ タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する
 - ・ 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために1回転以上回転する、タグを取らせないためにジャンプする等

(2) 防御時（ボールを保持していない時）

- タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為

- ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為で、具体的には次のような行為を指す
 - ・ タグを取りにいく際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く
 - ・ タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く
 - ・ 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く
 - ・ ボールを持っているプレーヤーの前方または後方から抱きつくようにしてタグを取る
 - ・ ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す
 - ・ ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や手、足で塞ぎながらタグを取ろうとする
 - ・ 両手を広げて防御をする
 - ・ タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近する
 - ・ 片手または両手で相手の体の一部を抑えてタグを取る
- (接触が発生しなくとも、手を進行方向に出すなど、危険と判断できる行為は、全て反則となる)

4条 タグ並びにタグの返し方

- (1) プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげること。「タグ」が見えない、聞こえない場合はタグをカウントしない場合がある。
- (2) タグを相手に返すときは、必ず手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない(反則)。
- (3) タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。
- (4) タグが発生した時は、攻撃側は速やかにタグを受け取る、防御側はタグを手渡しで返すよう、互いに努力しなければならない。
- (5) 防御側はタグを取ったプレーヤーのパスを邪魔する位置に立ってはならない。その場でしゃがむ、避けるなど、プレーの継続を妨げないこと。パスが出来ないことにより攻撃側に不利益が認められた場合は「オフサイド」となる場合がある。

5条 フリーパス時の注意

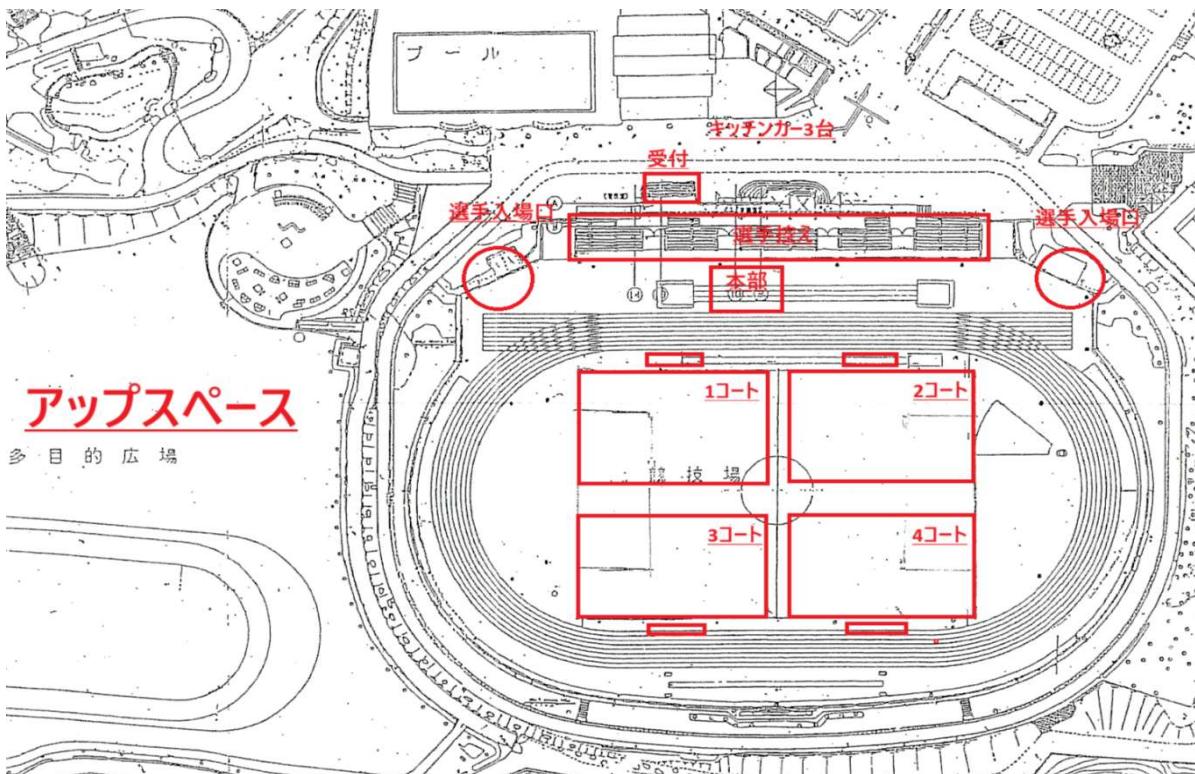
- (1) フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。
- (2) レフリーは、防御側プレーヤーの後退並びに双方のプレーヤーの静止を確認し、アシスタントレフリーがフラッグを下げたのを確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- (3) アシスタントレフリーは、防御側プレーヤーの後退並びに選手全員の静止を確認したら、フラッグを下げるのこと。
- (4) プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー並びにアシスタントレフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、違反のあった地点でのフリーパスを与える。

以上

選手入場は両サイドの北門及び南門(中央はスタッフのみ)

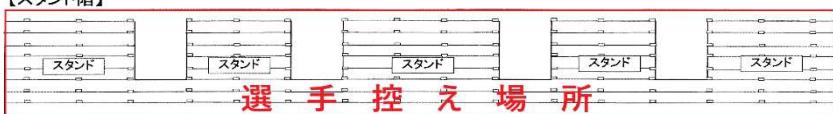
アップは前後半の最初のゲーム以外は多目的広場で

選手控えはスタンド

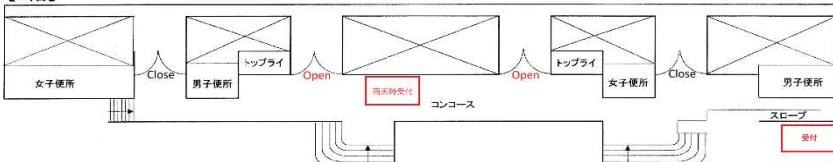


競技場メインスタンド平面図

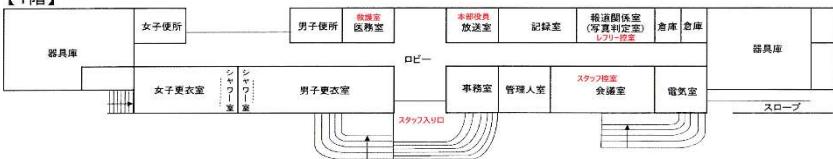
【スタンド階】



【2階】



【1階】



①施設保全のため、下記についてご協力ください。

- ◆スパイクを着用してトラックへ立ち入る事はできません。（管理者が指定する場所へ人工芝マットでの養生を行ってください。）
- ◆館内（ロビー、トイレ、更衣室など）およびスタンド内では、スパイクを着用しての歩行は禁止です。
- ◆トラック内（赤い部分）に長机、イス、テント等を設置する場合は養生をお願いします。その際、長机、イス等が直接トラックにふれないよう十分な広さの養生を行ってください。
- ◆ トラックにラインを引く場合、コード類を固定する場合は、ラインテープや養生テープなどをご利用ください。（ガムテープ、布テープなどは使用できません。）
- ◆壁に掲示物を貼ることは禁止です。掲示物を貼る必要がある場合は、管理者と協議してください。
- ◆内圈縁石に乗ること、蹴ること、損傷を与えることを禁止します。内圈縁石を外した場合は番号通りに、また、差込み部分のタータンが損傷しないように現状復旧をお願いします。

②芝生保全のため、下記についてご協力ください。

- ◆ラグビー→試合：3日/月（24日/年）まで※夜間照明を点灯して利用の場合は2日/月（24日/年）、アップ：10分/1試合（20分/日）までです。
- ◆上記以外のウォーミングアップについては、芝生アウトフィールドか、緑のタータン部分で行ってください。
- ◆芝生上の水分補給は水のみとします。

③放送設備の設定は公園職員が行います。放送室は放送関係者以外の立ち入りはご遠慮ください。放送室内は飲食禁止です。

④テントを設営（持込を含む）する場合は、必ず風倒対策としてウェイトを設置してください。

⑤競技場内の食事は禁止です。

⑥下記のような一般のお客様の迷惑となる行為はご遠慮ください。

- ◆コンコースや競技場周辺において、シートなどで場所取りや占有を行う行為。（通路およびトイレ、自動販機、喫煙所、消火栓の周囲を塞がない、ようにお願いします。）
- ◆競技場前の通路や広場、ジョギングコースで球技等の練習をする行為。
- ◆ジョギングコースを占有して練習を行う行為、また、ジョギングコース上で滞留する行為。

⑦競技終了後は、現状復旧（片付け、清掃、ごみの持ち帰り等）を確認してから利用報告書を提出してください。（ごみは各自持ち帰りをお願いいたします。）

⑧用器具-備品に破損等があった場合は速やかに報告してください。

⑨駐車場の数に限りがございます。公共交通機関をご利用いただくか、お車でお越しの場合は、乗り合いでお願いします。満車時は駐車ができません。また駐車場の混雑が予想される場合、主催者側で誘導人員を配置してください。

⑩園内は車両進入禁止です。荷物搬入等で車両乗り入れの希望がある場合は、事前に管理事務所までご相談ください。

⑪天候状況や管理上の理由により管理事務所が競技中止の判断を行う場合があります。

厚木市荻野運動公園指定管理者
荻野運動公園マネジメント共同企業体